

Alma Mater

# 白陵

第 5 号  
昭和61年 7月25日発行  
発行 白陵会  
〒676  
高砂市阿弥陀町阿弥陀2260  
TEL. 0794 (47) 1 6 7 5 (代)



## 白陵会総会開催

会員の皆さんお元気ですか。暑い毎日が続きますが、若さで頑張っておられることと思います。お蔭様で昨年の秋の総会も盛況裡に終了、続いて白陵会では第二回目的名簿発行に向けて快調に作業を進めています。

総会では久しぶりに会う懐かしい顔にあらこちらで歓声があがり、出席者一同この日ばかりは日頃の忙しさを忘れ、心ゆくまで懐旧談に花が咲きました。総会を機に同窓生のつながりが一層深まり、旧交を暖めあっていただけでは同窓会としてこななにうれしいこととはありません。総会で結ばれた輪を大切に育てていって下さい。

## 白陵会名簿にご協力を

夏の日ざしをさえぎる学園道路の榊並木は白陵を訪れる人々に清涼感と共にその年輪を感じさせてくれています。東大・京大合格者数において三年連続兵庫県下第三位の実績がどっしりとした重量感をもって白陵をつつむかのように、夏の光をいっぱいにあびた木々が我々をつつみこんでくれています。今や全国屈指の進学校として数えられるまでに成長した白陵ですが、真の英才の育成の場として今後一層の飛躍を続ける母校に大いなる期待と声援を送りたいと思います。

同窓会ではこの度、第二回目的名簿発行を準備中です。お互いの所在を知ることの大切さと言うまでもありませんが、今日の白陵をつくりあげた皆さん一人ひとりの現状を刻んでこそ白陵会名簿の意味があるのです。

皆さんお一人お一人のご協力をよろしくお願いたします。

# 盛大に挙行

総会準備委員長 上田喜裕



会員の皆さん、  
昨年は白陵会総会  
に多数参加いただ  
き有難うございま  
した。  
振り返りますと、

昭和五五年に黒川前会長のもとで新たな白陵会同窓会組織を結成して以来、白陵会総会開催は、常に議題に上り、理事会、役員会で度々議論され、五九年度末に来年一月十日に総会を開催することが役員会において決定され、すぐさま総会準備委員会が組織されました。総会準備委員会は副委員長の吉田達矢君（一〇回生）を筆頭に若いメンバーが会合を重ね、総会の式次第、懇親会のスケジュール、アトラクションに誰を呼ぶかなど、何度も会合を開いて準備を進めてゆきました。また会長をはじめ理事の方々にも協力をいただき、何とか総会開催にこぎつけるに至りました。ここに関係者各位の御協力に衷心より御礼申し上げます。

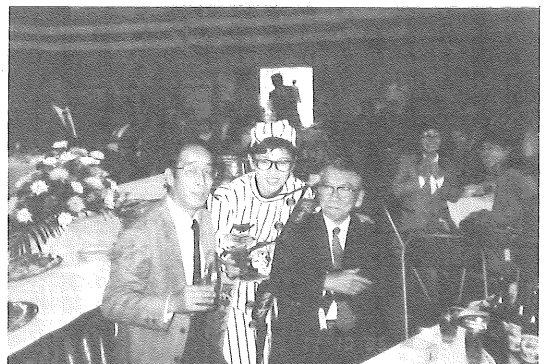


懇親会風景

何分、白陵会の設立以来、初めての本格的な総会ということで、先例もなく、私どもも総会のスタイルやイメージがなく、五里霧中で準備をしたといったのが実感で、総会の運営等、出席された会員の方々にいろいろ御迷惑をかけたのではないかと思いますが、本総会の経験をもとに、次回は、もっと素晴らしい総会になる様、努力してゆきたいと思っております。

昭和六〇年一月十日午前一〇時より、  
第二回白陵高等学校白陵会館において盛大に挙行されました。

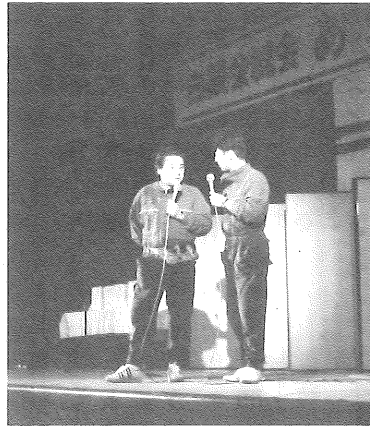
上田喜裕総会準備委員長（六回生）の開会宣言のあと、故三木省吾前学園長ほか物故会員の冥福を祈り黙禱をささげました。三木園長がこの席におられたらと、出席者一同いまさらのごとくその突然の死を悼むと共に生前の園長の授業風景など昨日のごと



# 白 陵 会 総 会

く想われて来ました。  
 黒川芳一白陵会会長(二回生)挨拶のあと、  
 来賓として三木二正理事長、八木誠造校長  
 より白陵会への力強い励ましの御言葉をい  
 いただき、議題の審議に移りました。

今回の総会において重要課題は、白陵会  
 会則の改正にありました。白陵会をより団  
 結力ある機動的な組織とするために新たに  
 理事を設け、理事会を通じ会務を審議し、  
 会長、副会長を補佐してゆくこと、総会を  
 六年毎に開催すること等が満場一致で可決



太平サブロー・シロー

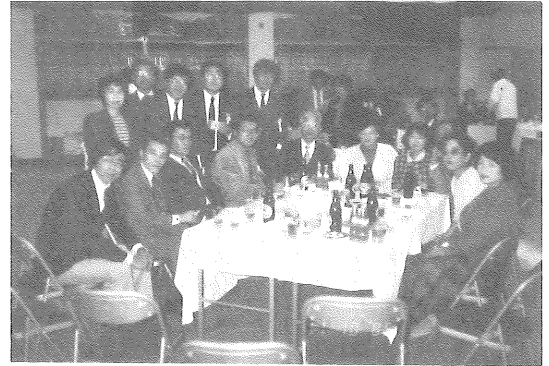
されました。

総会閉会后、会場を体育館に移し、懇親  
 会が開催されました。各テーブルにはオー  
 ドブルを備え、まねきのそばなどの模擬店  
 も出張し、一期から二〇期までの卒業生が  
 恩師の先生を囲み、あの白陵時代の想い出  
 に花を咲かせました。

セレモニーは、三木理事長寄贈の樽酒の  
 鏡割りに始まり、アトラクションとしてサ  
 ブロー・シロー、大助・花子をゲストに招  
 きました。真っ赤な顔をした赤松先生が、



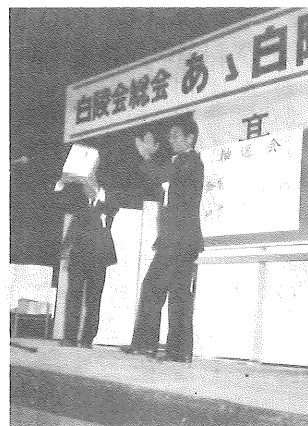
赤松先生と大助・花子



第3回生の懇親会風景

大助・花子の漫才の中に割って入って二人  
 相手にかけ合いを演じ、ヤンヤヤンヤの喝  
 采を受けるなど楽しく時は過ぎてゆきまし  
 た。

漫才のあとは、プレゼント抽選会が催さ  
 れ、抽選の結果、一等を何故か黒川会長が  
 引き当て、一部では、出来すぎではないか  
 との噂もありましたが、これは会長の日頃  
 よりの人柄や総会への熱意や悪運の強さが  
 神に通じたものと理解していただいております。



先輩、後輩が恩師と共に一同に会し、あ  
 の白陵時代の少年の心に戻って大いに語り、  
 大いに酒を酌み交わしました。

ファイナルは、先生方、卒業生が肩を組  
 み一体となって、「あゝ白陵の春の宵」白陵  
 歌を合唱して散会となりました。

総会出席の人々には記念品として本日の  
 総会の写真がその第一ページを飾られるこ  
 とを希望してアルバムを持って帰っていら  
 だきました。

卒業生の皆さん、次の白陵会総会で先生  
 方や皆さんの元気な姿に再び会えることを  
 期待しております。(第三回生 天野記)

ごあいさつ



会長 黒川芳一

暑い毎日が続きますが、御学兄におかれましては、いかがお過ごしですか。昨年の白陵会総会は白陵会館にて総会、体育館では、昨今テレビ等で人気絶頂の大平サブロー・シロー、大助・花子の二組を迎え、たくみな話術に大爆笑のうちに懇親会を開催、三木理事長をはじめ恩師の先生方を囲み、旧友が多数出席していただき、成功裡に終りましたこと、心より御礼申し上げます。

学園も、園長先生が亡くなられて早や三ヶ年が過ぎ、昨年は園長先生のブロンズの胸像が完成、白陵会館前にて並木道を登校する生徒達をいつも叱咤激励しているようです。園長先生の残された言葉『人間としての自己の存在を自覚し、生きていたことの証しを残して生涯を終れ』が、永遠の教えとして碑に刻まれています。私達は、今日一日をどのように過しているでしょうか。日本一の学園をめざして、自身自身の生命をちぢめて打ちこんでこられた園長先生だからこそ生まれた言葉ではないでしょうか。

私達同窓生も学園で学んだ白陵精神

を忘れることなく、社会人として一人の人間として、立派に生きて行きたいものです。

最後になりましたが、第一回会員名簿も六年になり、住所が変わられた同窓生も多く、新たに作成することに決定しました。現在、役員一同十二月上旬発行にむけて準備におわれております。ぜひ、名簿の購入及び広告の申し込み、よろしくお願い申し上げます。ごあいさつと致します。



暑中お見舞い申し上げます



理事長 三木一正

キラキラと容赦なく照りつける真夏の太陽に、若さと躍動美を感じる季節となりました。総会からはや九ヶ月、四季の移り変りの早さに驚いています。本校の同窓諸君の出身地が一校区に留まらず全国的様相を呈していることからみても、同窓会が一つにまとまていくという事は並大抵のことではないと思われのですが、役員の方々のご尽力で次第に会が活発化し組織化されていくのを見て、その成果を頼もしく思いながらもいつしか学校がいろんな形で同窓会におんぶしているのに気づく昨今です。

マスコミの影響も手伝ってか日本列島は今や教育談議の花ざかり、一億総教育評論家時代といったところでありますが、要するに『教育は人なり』でコッコツと地味ながらも手づくりの白陵の教育方針が全面的に受入れられるのも近いことと思えます。日々の積み重ねが歴史や伝統を綴っていくように今春の大学受験生たちが何よりも心強く思ったことの一つに先輩たちの大学の歓迎があります。なかには白陵高校受験

生への檄看板が立てられ、殊に京大では受験生全員の名前の書かれた大看板がお出迎え、一同を感激させてくれましたが、黒の詰襟り学生服に白線帽子、制服制帽の白陵生三十数名がその看板前に勢ぞろいした風景はまさに壮観、通りすがりにカメラをむけていく人たちもあつたとか、日頃は服装にもブツブツいつている生徒たちも大勢寄ると集団心理で結束十分、角度をかえてみればまさにニューファッションのデモンストレーションといったところだったかもしれない。この様に白陵は相変わらずおかたいところで勝負していますが、外部の印象としては質実剛健の中にも明るい学校のイメージが次第に浸透しはじめたことは逞ましい英才づくりにつとめている本校にとつては大変喜ばしいかぎりです。

この新聞が発行される頃には夏の高校野球予選で白陵即席応援団が先輩ゆずりの秩序ある(?)蜜声をはりあげていることでしょう。酷暑が続きます。御身ご自愛のうえ諸兄のますますのご活躍を祈ります。

同封の返信はがきが名簿作成の貴重な資料となります  
所要の各欄にご記入の上8月末日までにご投函下さい

盛夏の候、会員各位様には御健勝のことと存じあげます。  
我が白陵会も発足以来、二十余年の歳月を経て、人生で申せば成人となつてまいりました。  
この二十年余を顧りみするに、光陰流水の如く会員諸氏には、社会の中核となつて生業に励んでおられることと思ひます。  
さて、この度二回目の白陵会名簿を発刊する運びとなりました。会員各位様の近況をお知らせ願ひたく、お手数ですが、同封のハガキに御記入の上、投函されます様御願ひ致します。  
白陵会の今後の益々の発展と充実に為るに絶大なる御協力の程よろしく御願ひ申し上げます。

第二回 白陵会名簿  
十二月初旬発刊

広告依頼について

副会長 沼田好道

白陵会第二回総会も、多数の同窓生の参加を頂き、大変ありがとうございました。

恩師や同級生との久しぶりの再会に、懐かしい思い出話に花が咲いたことと思ひます。

さて、白陵会の次の行事は同窓会名簿の作成です。昭和五十五年十二月に発行された名簿も大分不備不明もあり、会則にもありますように六年毎の改定です。何とぞ宜しく御協力を御願ひ申し上げます。

尚、今回発行致します名簿は、一冊三、〇〇〇円で御購入いただきます。同封の返信ハガキに予約の有無をお知らせのうえ御返事願ひします。又、同封の広告も多数御参加を御願ひ致します。名簿料も広告料も同封の郵便振替用紙にて御送金下さい。

昭和61年度 白陵会名簿

B5判	約300ページ
発行予定日	昭和61年12月上旬
返信ハガキ締切	昭和61年 8月末日
価格	3,000円(送料共)
名簿代金送金方法	同封の郵便局振込用紙にて送金ください。

\*広告につきましては、別紙広告募集要項をご参照の上よろしくご協力の程御願ひします。

次の表のみなさんの現住所並びに連絡場所を御存知のかたは、是非とも別記の学年の担当幹事か白陵事務局までお知らせください

住所不明者名簿

■第1回生 (昭和41年3月卒業)

植原 隆  
柏木 昇  
釜本 孝晴  
河野 和樹  
河本 博之  
藤岡 憲弘  
沢谷 信大  
菅 友二  
高島 良介  
橋 和之  
深沢 成樹  
藤原 繁幸  
岸本 千恵子  
松島 潤治  
三宅 紀正  
村上 良  
八束 俊美  
山本 郁美

■第2回生 (昭和42年3月卒業)

井岡 憲司  
岡田 芳文  
鬼本 寛  
柏谷 健二  
児島 雄三  
金綱 麗子(三上)  
駒井 久  
古山 明美(岸本)  
佐伯 邦明  
沢 昭徳  
誠沢 義和  
忠見 正春  
田中 隆夫  
田中 秀樹  
田路 好道  
富岡 治  
佐治 峰子(沼田)  
松井 茂博  
松井 俊行  
三木 憲  
中島 保代(八橋)  
中村 さと子(杉田)  
野村 好郎  
古川 昭夫  
松島 博行  
本岡 幸三  
森下 雅人

■第3回生 (昭和43年3月卒業)

池田英一郎  
横山真貴子(岡本)  
高橋 ミチヨ(清瀬)  
瓦井 早苗  
楠 武芳  
久保 薫  
小林 敏裕  
鯉塚 章子  
野村 雅子(下村)  
白沢 文和  
清水 敏行  
杉田 茂

杉本 啓美(円井)  
平 聖久  
高島 直樹  
中村 勢津子(田路)  
滝井 なみき(古阪)  
津萩 純男  
古坂 訓子(土居)  
中村 敏樹  
重里 富子(服部)  
広田 博文  
岩本 登志子(藤田)  
牧野 洋子  
松尾 一広  
鹿島 義子(松崎)  
松田 真理  
野村 唱子(釜江)  
出口 敏良  
野邑 慶子(花岡)  
早船 美恵子(南)  
原 均  
広瀬 啓次  
藤野 健治  
前田 一夫  
間尾 信博  
松田 美栄子(児島)  
宮崎 久美子(平井)

■第4回生 (昭和44年3月卒業)

赤尾 繁男  
池上 潤  
生田 和良  
磯谷 和博  
上田 義夫  
上田 啓子(矢野)  
大塩 宰司  
梅本 ますみ(菅原)  
後藤 由二  
芝 唯司  
柴田 直行  
頭司 高英  
辻 泰孝  
得田 百合子(前田)  
長尾 良太  
松本 隆広  
村上 賢治  
渡辺 卓俊

■第5回生 (昭和45年3月卒業)

浅田 強  
石原 信行  
岡本 栄介  
紙谷 長哉  
河野 豊一  
小谷 茂  
佐治 卷夫  
澤上 順一  
柴田 和弥  
清家 真雄  
曾賀 俊雄  
高橋 裕  
本條 えり子  
宮嶋 彩子(林)  
岩田 公子(堀川)  
松本 茂  
溝口 敬三

■第6回生 (昭和46年3月卒業)

飯塚 操(秋元)  
池田 隆宏  
石原 規子(山本)  
武内 邦彦  
田代 裕  
田路 恵一  
長野 総一郎  
名村 知英子(美原)  
八田 昌典  
樋口 強  
福永 博一  
三浦 鎮  
水野 孝則  
柳内 薫  
児島 弘明  
桜井 啓詞  
藤沢 淳子(田中)  
林 正一  
高瀬 生代(藤原)  
松尾 直人  
三浦 朝光  
藤原 早苗(山本)

■第7回生 (昭和47年3月卒業)

大西 清介  
小原 一剛  
笠原 敦子(大西)  
中山 敏朗  
野田 啓二  
船江 輝和  
福田 幸男  
本庄 教彦  
本田 昌子(大塚)  
丸山 英樹  
村下 美知子(大西)  
森 由美子(高倉)  
山本 賢司  
山本 義朗  
明石 慎吾  
有村 井一  
河野 公明  
柴田 輝子(小和)  
柴田 隆行  
柴田 誠  
谷 浩志  
西川 吉弘  
早瀬 範明  
藤井 誠一  
角田 昭子(藤島)  
藤本 武文  
守舎 明彦

■第8回生 (昭和48年3月卒業)

河崎 すみ江(藤井)  
多田 優子(井上)  
田中 英子(河島)  
正垣 良郎  
長谷川 淑子  
原口 徳子  
平井 隆宣  
平石 純  
福山 恭一郎  
南 信男  
森崎 秀典

横山 雅人

■第9回生 (昭和49年3月卒業)

木村 伸治  
熊沢 康代(高橋)  
重田 達之  
篠本 和男  
住谷 俊彦  
永谷 陽子(岡野)  
横山 昌司  
北風 良介  
福永 研  
福原 信彦  
溝端 邦洋  
向井 泉美  
山本 誠也  
山脇 伸三

■第10回生 (昭和50年3月卒業)

河合 順子  
児島 竜三  
岡村 賢  
坪田 吉広  
岩男 信彦  
矢野 一敏

■第11回生 (昭和51年3月卒業)

落合 正晴  
小西 道郎  
細野 英一  
伊藤 慎介  
古測 昭隆  
城甲 隆也  
田口 哲也  
中山 純夫  
野村 和義  
松木 俊秀  
道辻 毅彦  
森 昌也  
矢吹 智

■第12回生 (昭和52年3月卒業)

近藤 博子  
内藤 達也  
石川 善一  
大西 雅彦  
里見 浩則  
岡村 浩一  
富永 弘徳  
成島 剛史  
西村 隆毅  
真下 研一  
溝端 信二  
吉川 宗宏

■第13回生 (昭和53年3月卒業)

阿部 至信  
田中 善明  
橋本 伸一郎  
横山 典明  
池田 直人  
上杉 敏夫  
川本 敏志

岸本 雅美  
酒井 尊司  
柄尾 隆隆  
野間 浩彰

■第14回生 (昭和54年3月卒業)

給田 英樹  
槌本 正彰  
荻原 弘志  
平井 康彦  
水田 慎一  
伊藤 讓  
穎川 浩太郎  
香山 明一  
駒田 隆彦  
島田 孝仁  
森川 雅人

■第15回生 (昭和55年3月卒業)

田谷 聰  
田中 真至  
土屋 裕  
西岡 宏樹  
前池 龍太  
茨木 淳二  
永瀨 俊樹

■第16回生 (昭和56年3月卒業)

西野 滋  
宮本 英樹  
駒田 智彦  
福田 隆  
美田 宏子

■第17回生 (昭和57年3月卒業)

大橋 繁雄  
田中 秀史  
田中 庸介  
中野 隆文  
西田 一典  
横山 俊裕  
佐藤 惠一郎  
中島 聡  
藤原 ますみ  
水落 耕司  
森 一生

■第18回生 (昭和58年3月卒業)

家村 康達  
工藤 大五  
世古 知己  
田中 聡史  
土屋 京子  
戸崎 尚  
前池 英樹  
宮道 圭介  
山下 達也  
山本 行紀

■第19回生 (昭和59年3月卒業)

栗原 光世

### 大学入学試験合格者数調

(白陵)

昭和60年 東大8,京大22,早大・慶大45,国公立大医学部17

—— 堂々兵庫県下第3位の実績 ——

国公立大学					
大学名	58年	59年	60年	61年	
東京大	3	11	12	8	
京都大	21	23	23	22	
一橋大	5	1		2	
大阪大	10	8	12	10	
北海道大	4	4	3	3	
東北大	4	2	3	3	
東北大		2	1	1	
筑波大	2	1			
名古屋大	1	3		2	
九州大	2	1	2	1	
神戸大	20	14	17	21	
岡山大	4	5	2	2	
広島大	1	1	6	5	
防衛医大	1	3	7	3	
大阪市大	7	3	4	5	
その他	47	51	35	38	
合格者数 (内医学部)	132 (7)	133 (17)	127 (20)	126 (17)	
対卒業生国公立大合格率	82.0%	98.5%	76.0%	80.2%	

私立大学				
大学名	58年	59年	60年	61年
早稲田大	23	39	27	25
慶応大	22	19	19	20
上智大		7	4	4
中央大	6	6	3	4
東京理大	12	3	4	10
明治大	1	1	1	2
津田塾大	1	1		1
国際基督教大	1	1		
関西学院大	19	28	27	22
関西大	17	7	11	15
同志社大	26	27	32	24
立命館大	3	4	5	3
大阪医大	2	1	4	3
関西医大		1	1	2
兵庫医大	4	1	3	2
大阪歯大	1		1	6
その他	15	27	30	30
合格者計 (内医学部)	153 (8)	173 (3)	172 (10)	173 (10)

(岡山白陵)

昭和60・61年 東大5,京大17,国公立大医学部18

—— 学寮完備の新進気鋭校 ——

国公立大学			59・60・61年国公立大医学部・薬合格者数46名			
大学名	61年	54~61年	大学名	医	歯	薬
東京大	2	8	東京大	1		
京都大	5	28	京大	2		
大阪大	6	25	大阪大		3	2
北海道大	3	8	東北大		1	
東北大	2	6	北海道大		1	
横浜国大	2	4	神戸大	1		
名古屋大		5	信州大	1		
九州大	5	14	三重大	1		
神戸大	6	24	鳥取大	1		
岡山大	1	45	岡山大	2	2	
広島大	2	11	広島大	1	1	
山口大	1	10	山口大	3		
高知医大		6	香川医大	1		
防衛医大	4	7	高知医大	3		
大阪市大	1	16	大阪市大	2		
神戸商大	2	17	和歌山県医大	2		
その他	17	172	福島県医大	1		
合格者数 (内医学部)	59 (8)	406 (50)	奈良県医大	3		
卒業生数	94	543	防衛医大	5		
対卒業生国公立大合格率	62.8%	74.8%	その他		2	4
			合計	30	10	6

私立大学		
大学名	61年	54~61年
早稲田大	6	37
慶応義塾大	8	48
上智大	1	13
東京理科大	3	12
中央大	3	17
国際基督教大		1
青山学院大	1	9
東京女子医大	1	3
関西大	6	44
関西学院大	7	75
同志社大	8	53
立命館大		26
大阪医大	3	9
関西医大	2	9
兵庫医大	2	11
京都薬大	1	12
神戸女子薬大	2	9
神戸女学院大		3
その他	17	115
合格者計 (内医学部)	71 (8)	506 (50)

# 白陵会ニュース

### ★祝／岡白白陵創立十周年

昭和五十一年に誕生した岡白白陵も早いもので創立十周年を迎えました。この間施設面でも年々拡張され、昨年は新に女子寮も完成し、今や男女共学の寄宿学校としてその実績を高く評価されています。姉妹校としてますます発展する岡白白陵に大いなる声援を送りたいと思います。

### ★躍進白陵、三年連続県下第三位

今春の大学進学成績においても輝かしい実績を納めた白陵ですが、東大・京大合格者数においては、灘・甲陽に次いで三年連続県下第三位の位置を占め、全国屈指の進学校として大いなる躍進を続けています。

来年度の大学入試制度変更にも早くから対処されており、学園では在校生諸君の明るい声が周囲の山々にこだまし、前途洋々の航海が続いています。

### ★川副義文氏(二回生)白陵会理事に就任

磯野理事(二回生)にかわり、校内幹事の川副氏が理事に先日の役員会の席上就任されました。

### ★吉岡・国司・南の各先生がご退職

長らくお世話になった三名の先生が三月で退職になりました。吉岡先生(国語)はその人望あふれるお人柄により園長先生急逝後、第三代校長として活躍されたことは皆様よくご存知のことと思います。国司先生(理科)は先任部長・中学部長として創立当初から二十一年間にわたり、卒業生がご指導いただきました。南先生(社会)は寮監を兼務され教科以外に寮生の指導にも力を注がれました。このように、同窓会の皆さんはいづれも馴染の深い先生で思い出が多いことと思います。まだまだお元気ですのでもたげひ同窓会を開く時にはお出かけいただきたくと思っています。

### ★総務委員会誕生

総会開催の重任を終えた総会準備委員会と研修レクリエーション委員会が統合され、継続的な幅広い活動を行う部門として新に総務委員会として生まれ変わりました。また、総会・名簿発行等のプロジェクトに対しては特別委員会を設置するとし、今回は森本副会長を委員長とする名簿発行委員会がすでにスタートしています。会報発行を担当する広報委員会を含めたこれら委員会の活動にご期待下さい。

## 白陵会役員名簿

副会長		理事		会計監事		常任幹事		校内幹事	
黒森	上沼	天川	神吉	貞吉	清加	下遠	伊正	大芳	長黒
田本	川本	倉野	吉野	藤本	藤本	山田	山田	小長	宮崎
田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	田田	山崎	山崎
道行	裕道	文裕	明文	文裕	明文	文裕	明文	文裕	明文
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

## 白陵会収支計算書

昭和60年4月1日～昭和61年3月31日 (単位円)

入		出	
科目	金額	科目	金額
会費	1,570,000	会議費	716,646
会費	830,000	総会費	1,380,270
会費	267,373	慶弔費	89,010
雑収入	127,000	消耗品費	14,760
		記念品費	927,200
		通信運搬費	266,690
		印刷費	182,200
		寄付金	187,054
前期繰越	6,639,340	後期繰越	4,669,883
合計	9,433,713	合計	9,433,713

### 編集後記

会報を作成するにあたりいつも多大なご協力をいただきありがとうございます。今回は事務局の清瀬君の急病による入院、下村君の岡白白陵への転勤と広報委員会にとっては二本柱を欠いての編集となりましたが、岡山からかけた下村君をはじめ熱心な各委員の努力により総会特集をはじめ、名簿作成のお願いをもちこみなんとか発行までこぎつけました。名簿発行は何をおいても皆さんのご協力が必要です。何卒よろしくお願いたします。